

**ふるさと納税活用で
財源確保と
シティプロモーションを**



かとう ゆうた
加藤 裕太 議員

Q 寄附受入額10億円の達成を考えた際、現在の組織体制の評価と、今後の体制整備予定は。

A 寄附受入額10億円の目標達成に向けて、返礼品の開拓などが不可欠であること、蓄積してきたノウハウを維持、継続すること、組織として必要となる体制も現状より高度になるものと想定されます。組織体制については、具体的な計画等はありませんが、今後の寄附受入額状況等を考慮し、体制の検討を進めてまいりたいと考えます。

Q 実際に香取市を訪れる方も多いので、地域内で使えるクーポン等の返礼品も効果的。検討状況は。

A 地域内で使えるクーポン等については、ふるさと納税制度を基準に即した返礼品であることが前提となります。令和5年3月現在、食事券や施設利用券などを登録している返礼品数は57点あります。このうち、複数の施設共通で使えるものとして、市内登録事業者のみで利用できるPayPay商品券があり、12事業者に登録をいただいております。

Q ふるさと納税自販機やQRコードでの寄附を導入する自治体もあるが、検討状況は。

A 自販機の設置はありませんが、返礼品としてPayPay商品券を取り扱う事業者の各店舗等には、QRコードを記載したポスターやチラシがあり、それを読み込むことにより、その場で寄附の手続を行うことができるよう取り組んでおります。

**再生可能エネルギー活用で
脱炭素化推進を**

Q 香取市の太陽光発電所の稼働状況は。

A 市においては、現在、5つの太陽光発電所が稼働しています。天候に左右される状況ではありますが、全体の年間発電電量として、令和4年度は約549万kWh、売電収入は約2億4000万円となります。

**香取市独自の動物愛護・
保護運動の推進を**



つじ たつひろ
辻 達広 議員

Q 香取市においては、どのような体制で動物愛護に関する施策を実施しているか。

A 狂犬病予防法に基づく畜大登録や、市内各地域を巡回して行う狂犬病予防集合注射を県獣医師会への委託により例年実施しています。また、飼い犬、飼い猫に対する不妊・去勢手術費用への助成を行っています。

Q 市内における地域猫の実態と保護猫への対応は。

A 地域猫として地域住民が認め、一定の管理をしている猫として市が確認した事例は、今のところありません。また、保護した猫については、県ホームページ上で出会いの場として、猫の特徴や写真を公開し、新たな飼い主探しのための情報を発信しているほか、動物愛護団体と連携して対応していることとです。

Q 千葉県動物愛護センターとの今後の連携は。

A 飼い主のいない猫や地域猫などに対する相談や苦情が増えることも考えられる



千葉県動物愛護センター(富里市)

ることから、県動物愛護センターとのさらなる情報共有や連携の強化を図り、地域の問題解決に当たりたいと考えます。

意見 行政サービスとして保護活動など、カバーしきれない部分については市内のボランティアの方々と早急に連携していくことが大切だと思います。

**香取おみがわ医療センターの
地方独立行政法人化の
メリット活用を**



香取おみがわ医療センター

Q 地方独立行政法人化によってどのような変化が出てきたのか。

A 法人独自の迅速な意思決定や弾力的な予算執行、人事管理の弾力化等による医療のサービスや質の向上などのメリットが現れていると考えております。

Q 4名の常勤医師が確保できるなど改革が進む。これも地方独立行政法人化の効果か。

A 医師の初任給基準表や診療実績手当の改正、医師事務作業補助者1名を増員するなど、勤務環境の改善を行ったと聞いており、これらも地方独立行政法人化の効果であると考えております。

意見 補助金や新たな再生可能エネルギー等の活用で脱炭素化をさらに推進していただきたい。

閉校校舎の備品活用推進を

Q 閉校した学校における備品管理と備品整理のスケジュールは。

A 備品整理についての決められたスケジュールはありませんが、授業に使用する教材備品や用具などを整理するために時間を要することから、一定期間は統合先の学校が優先して使用し、その後は、他の学校が必要な備品を使用することとしております。

Q 全国各地で推進されている備品の販売や東庄町では学校開放デーを企画し、一般家庭で再利用したそうだが、どの様に評価するか。

A 東庄町の事例については、地域の方に非常に好評であったと伺っており、町としても、廃棄処分軽減にもつながったこととです。市においては、現在、市民や一般の方への譲渡については行っておりませんが、提案いただいた内容を踏まえ、今後も有効活用を図っていききたいと考えております。

意見 閉校した学校の備品には、特に地元の方々の思い出が詰まったものが沢山あります。その備品を有効活用する意味でも、廃棄と一言選択肢ではなく、皆さんの手にわたる方法を考えていただきたいと思います。